

大学あちらこちら

東京福祉大学

心理学部心理学科・心理学研究科

手島茂樹 (てしま しげき)

所在地：群馬県伊勢市山王町 2020-1

<http://www.tokyo-fukushi.ac.jp/gakubu/shinri.html>

Profile — 手島茂樹



東京福祉大学心理学部心理学科教授。臨床心理士。専門は臨床心理学。主な著書は、『カウンセリング実践ハンドブック』（分担執筆、丸善）など。

東京福祉大学に勤めてることを話すと「その大学、知ってます」と言われます。しかし社会福祉学部1学部として誕生したのが2000年4月です。したがって、まだ10年しか経ってません。にもかかわらず「知ってます」と言われびっくりです。たぶん、就職率日本一、社会福祉士・精神保健福祉士合格者数日本一という毎年の実績が浸透してきたからでしょう。

さて、その社会福祉学部の国際福祉心理専攻が発展してできたのが、ここにご紹介する心理学部心理学科です。2009年4月の開設です。つまり、現在はスタートダッシュの真っ最中であり、燃えに燃えているところです。

まず、本学科の核を紹介します。学部長として全体の指揮を執っているのが、日本カウンセリング学会元理事長であり、元筑波大学教授の松原達哉教授です。ご自身が創始したアパシーに効果的なLAC法で博士号を取得しています。心理学科誕生以前の2003年には臨床心理士を養成する大学院修士課程が、2007年には博士課程ができましたが、その研究科長を務めているのが、アサーションや家族療法でおなじみの平木典子教授です。

本学科のカリキュラムは、心理学の全ての領域をカバーし、基礎を重視しながら、将来どの方面にも進めるように組んであります。ただ、やはり臨床心理学に重点を置いている大学と言ってよいと思います。その証拠に臨床心理士の

資格を持つ先生方が全教員21名中13名という多さです。また、大学院は日本臨床心理士資格認定協会から臨床心理士養成大学院第1種指定校に認定されています。ここがいちばんの特徴でしょう。

二つめの特徴は、心理学部にも大学院にも通信教育課程が併設されていることです。一般的には、高等学校段階で自らの進路を決定しますが、実際にはあまり経験を積んでいない年齢で進路を決めるのは無理なところもあります。一度職業に就いてから、これこれこういう方面へ行きたいと考える人は多いでしょう。そういう方々にとって通信教育はとても魅力的ですが、心理学科の通信教育課程はこれまでほとんどありませんでした。統計学や実験など理系の要素があって、それらは通学しないとなかなか身につかないからです。しかし、現在はパソコンが普及し、その活用によりハンデを乗り越えていけるようになってきました。そこで本学は通信教育課程を設けて広く門を開いているわけです。

三つめの特徴は、その授業内容です。本学では、知識の暗記を重視するのではなく、教授と学生の対話や学生どうしのグループディスカッションをふんだんにとり入れた双方向対話型の授業を展開し、レポートの作成や発表の機会も豊富に取り入れています。問題を把握し、論理的に解答を導き出す力を養い、社会に出て実際の問題に直面した時にそれを解決できる

ような、実践的な人材を養成しようとしているからです。このような授業スタイルにより、心理学をめざす学生が苦戦しがちな心理統計や基礎実験もうまく学んでいます。

こんなふうに授業を充実させるため熱心に取り組んでいるのが、教員の教授方法を改善するためのファカルティ・デベロップメント研修です。教員がお互いの授業を見学したり、教員を学生役にして模擬授業をして、内容が理解できる授業となっているかなどを検討しています。また、授業がわからない学生のために、先生方に自由に質問できる時間が設けられています。オフィスアワーです。その時間、教員は研究室にかならずいるので、どんどん押しかければよいわけです。さらには担任ともいえるアカデミックアドバイザーの制度があり、単位修得についてアドバイスしたり、学生生活の相談にのったりしています。

大学へ入学するからには、それぞれの夢があり、その実現の場が就職です。そのためいろいろな資格を取得できるようになっています。たとえば認定心理士、養護教諭や小学校教諭の1種免許状などです。福祉に関する相談・援助の実践方法も学べ、社会福祉士受験資格も取得できます。一般企業のほか社会福祉の分野での活躍も広がっていくものと思われます。また、本学大学院心理学研究科に進学し、臨床心理士をめざす道も開かれています。